

# 宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

## 宮崎県第32週の発生動向

### 全数報告の感染症 (32週までに新たに届出のあったもの)

1類感染症：報告なし。2類感染症：結核5例。3類感染症：報告なし。4類感染症：報告なし。  
5類感染症：報告なし。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型	症状等
2類	結核	都城	40歳代	女	肺結核	咳、痰等
			80歳代	男	肺結核	咳、痰、発熱、呼吸困難
			80歳代	女	気管支結核	咳、発熱
		高千穂	60歳代	男	肺結核	咳、痰、喘鳴
			80歳代	男	結核性腹膜炎	症状なし

### 定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は902人(定点当たり30.2)で、前週比103%とほぼ横ばいであった。なお、前週に比べ増加した主な疾患はRSウイルス感染症とヘルパンギーナで、減少した主な疾患は感染性胃腸炎と手足口病である。

#### ★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

##### 【ヘルパンギーナ】

報告数は237人(7.4)で、前週比134%と増加し、例年同時期の定点当たり平均値\*(3.3)の約2.2倍である。中央(30.0)、延岡(23.8)、日向(15.0)保健所からの報告が多く、年齢別は3歳以下が全体の約8割を占めた。

##### 【手足口病】

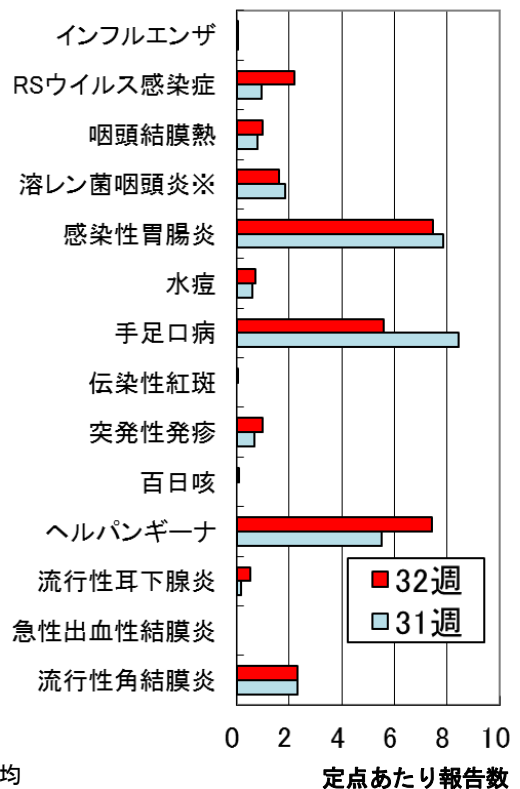
報告数は179人(5.6)で、前週比66%と減少したが、例年同時期の定点当たり平均値\*(5.6)と同率である。延岡(13.3)、日向(7.7)、小林(6.0)保健所からの報告が多く、年齢別は1~2歳が全体の約6割を占めた。

##### 【RSウイルス感染症】

報告数は70人(2.2)で、前週比232%と増加し、例年同時期の定点当たり平均値\*(0.78)の約2.8倍である。宮崎市(3.4)、延岡(3.3)、都城(2.3)保健所からの報告が多く、年齢別は1歳が全体の約半数を占めた。

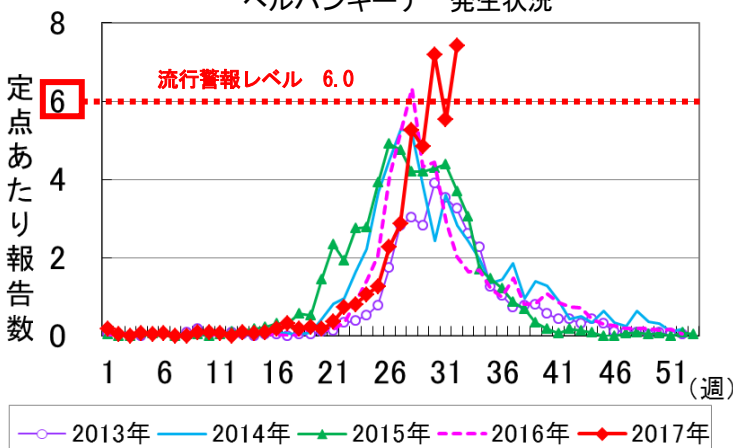
\* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均

### 《前週との比較》

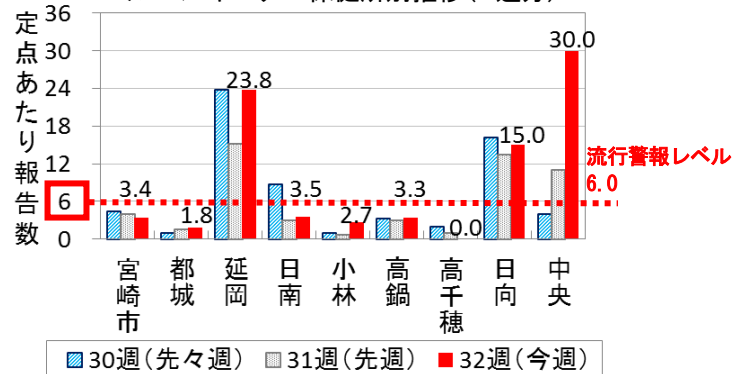


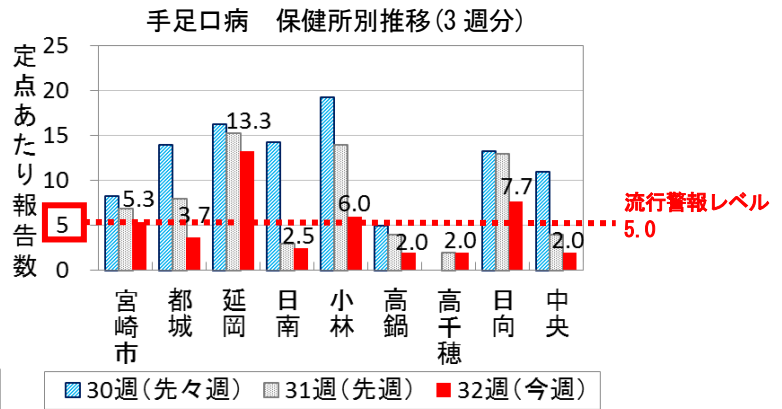
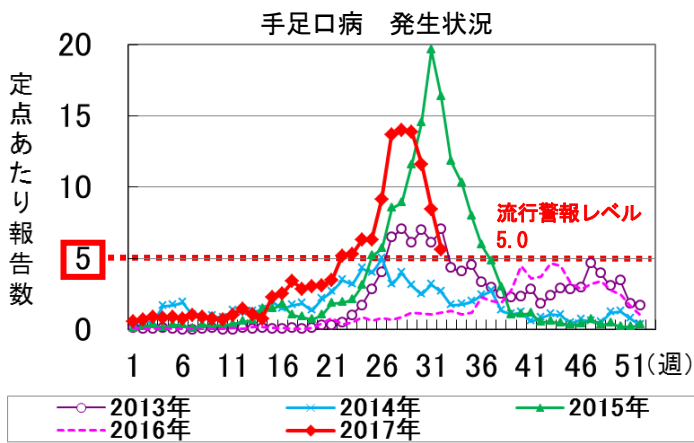
※ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

### ヘルパンギーナ 発生状況



### ヘルパンギーナ 保健所別推移(3週分)





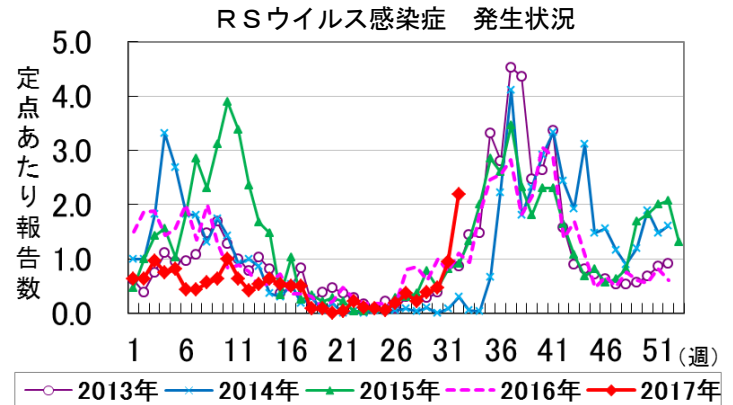
★基幹定点からの報告★

○マイコプラズマ肺炎：  
延岡保健所から1例報告があり、0～4歳であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値

超過疾患★

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	手足口病(5.3)
都城	なし
延岡	手足口病(13.3)、ヘルパンギーナ(23.8)
日南	咽頭結膜熱(3.5)
小林	手足口病(6.0)
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	手足口病(7.7)、ヘルパンギーナ(15.0)
中央	ヘルパンギーナ(30.0)



＊流行警報レベル開始基準値＊

- ・咽頭結膜熱(3.0)
- ・手足口病(5.0)
- ・ヘルパンギーナ(6.0)

口病原体検出情報（衛生環境研究所微生物部 平成29年8月14日までに検出）

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取月日	臨床症状等	検出材料	同定日
EPEC (O157:HUT)	20歳代	女	2017.07.25	—	便	2017.08.04
EPEC (OUT:HNM)	70歳代	男	2017.07.26	出血性下痢	便	2017.08.02
EPEC (OUT:H40)	—	—	2017.07.26	発熱(37.9℃)、水様性下痢、嘔気、嘔吐	便	2017.08.04
EPEC (OUT:H40)	20歳代	女	2017.07.26	—	便	2017.08.04
EPEC (OUT:H27)	30歳代	女	2017.07.27	—	便	2017.08.04
Salmonella Saintpaul (O4:e,h:1,2)	5～9歳	男	2017.07.27	発熱(38.5℃)、水様性下痢、嘔気、嘔吐	便	2017.08.04
Salmonella Sandiego(O4:e,h:n,z15)	10歳代	男	2017.07.28	—	便	2017.08.04
Escherichia albertii	0～4歳	女	2017.08.01	水様性下痢、腹痛	便	2017.08.01

○5名の患者から腸管病原性大腸菌（EPEC）が分離された。EPECの判定基準は病原因子のST/LT/VTを持たない *eae*（インチミン遺伝子）陽性の大腸菌で、遺伝子検査を実施できない場合は見逃される可能性が高い下痢原性大腸菌である。また、1名の患者から *Escherichia albertii* が分離された。*E. albertii* は *eae* を保有（まれに *stx2f* も保有）する大腸菌とは異なる菌種で、生化学性状も非定型的大腸菌と似ている。なお、厚生労働省は *E. albertii* による集団感染事例が増えていることを受け、平成28年11月9日付で（1）*eae* 陽性・非運動性・乳糖非発酵・硫化水素非産生の菌株、（2）*stx2f* 陽性の菌株、（3）*Shigella boydii* 血清型13と同定された菌株、（4）*Hafnia alvei* と同定された菌株についてはPCR法による *E. albertii* の探索を行い、分離株の分与や疫学調査、情報提供などを求めている。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取日	臨床症状	材料	検出日
ライノウイルス	0～4歳	男	2017.07.13	ウイルス性上気道炎疑い、38.8℃、上気道炎	咽頭ぬぐい液	2017.08.08
ライノウイルス	0～4歳	男	2017.07.22	急性細気管支炎、37.7℃、 下気道炎(肺炎、気管支炎)	咽頭ぬぐい液	2017.08.08
パラインフルエンザウイルス3型	0～4歳	女	2017.08.01	不明熱、40.0℃、上気道炎(咽頭痛)、 下気道炎(気管支炎)	咽頭ぬぐい液	2017.08.08
インフルエンザウイルスAH3	0～4歳	男	2017.07.03	インフルエンザA型、39.4℃、上気道炎(咽頭炎)	鼻汁	2017.08.01
インフルエンザウイルスB (山形系統)	5～9歳	女	2017.07.03	インフルエンザB型、39.0℃、頭痛	咽頭ぬぐい液	2017.08.01
コクサッキーウイルスA6型	0～4歳	男	2017.06.09	手足口病(典型的)、38.6℃、口内炎、 発疹(丘疹)	咽頭ぬぐい液	2017.08.03
コクサッキーウイルスA6型	0～4歳	女	2017.06.15	手足口病疑い、38.6℃、発疹、下痢、嘔気・嘔吐	咽頭ぬぐい液 便	2017.08.03
コクサッキーウイルスA6型	0～4歳	男	2017.06.02	手足口病、37.8℃、口内炎、発疹	咽頭ぬぐい液	2017.08.14
コクサッキーウイルスA6型	0～4歳	女	2017.06.30	手足口病、38.0℃、口内炎、 上気道炎(咽頭炎)、発疹(丘疹)、嘔気、嘔吐	咽頭ぬぐい液	2017.08.14
コクサッキーウイルスA6型	0～4歳	女	2017.07.03	手足口病、39.4℃、発疹	咽頭ぬぐい液	2017.08.14
コクサッキーウイルスA10型	0～4歳	男	2017.06.04	手足口病、発熱、口内炎、発疹	咽頭ぬぐい液	2017.08.14
アデノウイルス2型	5～9歳	男	2017.05.12	急性咽頭炎、40.0℃	鼻腔咽頭ぬぐい液	2017.08.02

○手足口病と診断された6名の乳幼児のうち5名からコクサッキーウイルスA6型が、1名からコクサッキーウイルスA10型が分離・検出された。手足口病は飛沫感染によって伝播することが多いが、便中に排泄されたウイルスの経口感染もありうる。手足口病発症後、唾液へのウイルス排泄は約1週間とされているが、便へのウイルス排泄は回復後も2～4週間続くとされている。そのため、回復した後もおむつの処理や排泄後の手洗いは念入りに行う必要がある。

○不明熱と診断された幼児1名からパラインフルエンザウイルス3型(PIV3)が検出された。PIV3は4つの血清型があるが、そのうちPIV3は感染力が強く、下気道炎を起こしやすいとされているため注意が必要である。

🇯🇵 全国 2017 年第 31 週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (全国第 31 週)

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	367 例				
3類感染症	細菌性赤痢	4 例	腸管出血性大腸菌感染症	174 例		
4類感染症	E型肝炎	6 例	A型肝炎	5 例	重症熱性血小板減少症候群	5 例
	デング熱	6 例	日本紅斑熱	8 例	マラリア	1 例
	ライム病	1 例	レジオネラ症	28 例	レプトスピラ症	1 例
5類感染症	アメーバ赤痢	11 例	ウイルス性肝炎	3 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	22 例
	急性脳炎	9 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	2 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5 例
	後天性免疫不全症候群	14 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2 例	侵襲性肺炎球菌感染症	16 例
	水痘(入院例)	1 例	梅毒	79 例	播種性クリプトコックス症	2 例
	破傷風	3 例	風しん	2 例	麻しん	1 例
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	1 例				

□ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 98%とほぼ横ばいであった。なお、前週と比較して増加した主な疾患はRSウイルス感染症で、減少した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎とヘルパンギーナである。

RSウイルス感染症の報告数は4,934人(1.6)で前週比149%と増加し、例年同時期の定点当たり平均値\*(0.26)の6.0倍である。福島県(4.1)、愛媛県、鳥取県(各3.2)からの報告が多く、年齢別では6ヶ月～1歳が全体の約6割を占めた。

手足口病の報告数は29,972人(9.5)で前週比97%とほぼ横ばいで、例年同時期の定点当たり平均値\*(4.2)の約2.3倍である。福井県(23.3)、新潟県(21.2)、石川県(18.2)からの報告が多く、年齢別では1～2歳が全体の約6割を占めた。

\* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均値

●今回記載の宮崎県第32週の報告数及び定点当たりの報告数は、お盆期間の影響により暫定値となります。次回確定値へ修正いたしますので、今回と値が異なる場合がございますが、御了承ください。

## 📊 月報告対象疾患の発生動向 <2017年7月>

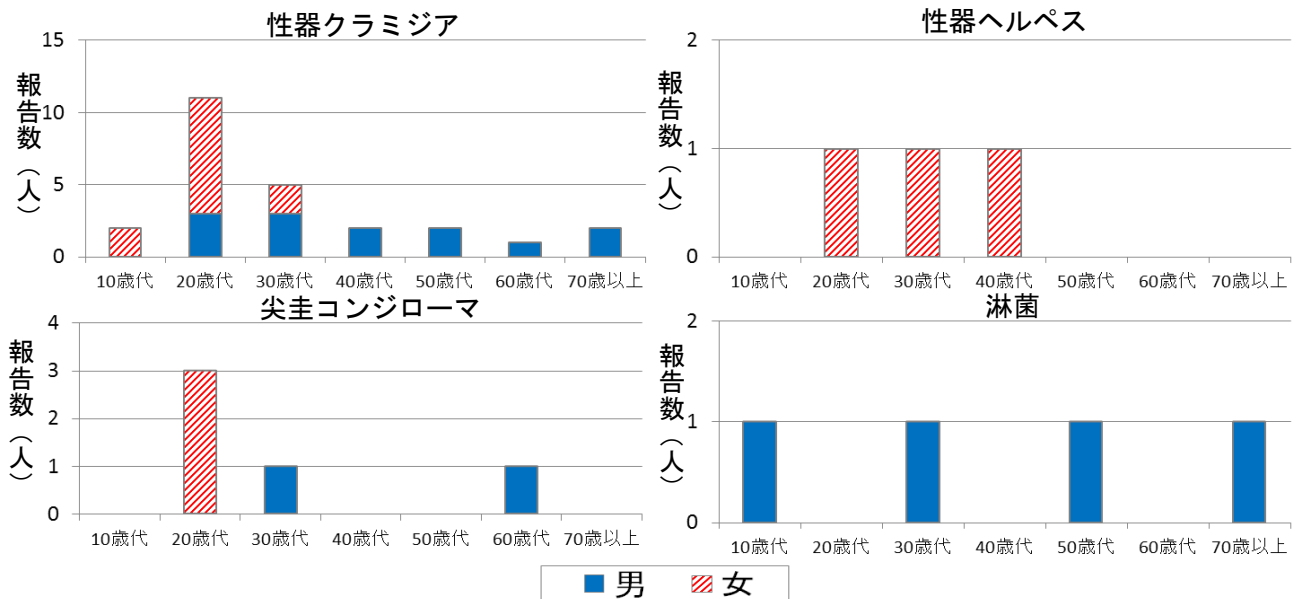
### □性感染症

**【宮崎県】 定点医療機関総数：13**

定点医療機関からの報告総数は37人(2.9)で、前月比93%と減少した。また、昨年7月(2.2)の128%である。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数25人(1.9)で、前月と同率、昨年7月の約1.3倍である。20歳代が全体の約4割を占めた。(男性13人・女性12人)
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数3人(0.23)で、前月の0.6倍、昨年7月と同率である。  
(女性3人)
- 尖圭コンジローマ：報告数5人(0.38)で、前月の5.0倍、昨年7月の約1.7倍である。  
(男性2人、女性3人)
- 淋菌感染症：報告数4人(0.31)で、前月の約0.4倍、昨年7月と同率である。(男性4人)



**【全国】 定点医療機関総数：985**

定点医療機関からの報告総数は4,110人(4.2)で、前月比99%と横ばいであった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,153人(2.2)で前月比99%、性器ヘルペスウイルス感染症772人(0.78)で前月比91%、尖圭コンジローマ481人(0.49)で前月比100%、淋菌感染症704人(0.71)で前月比108%である。

### □薬剤耐性菌

**【宮崎県】 定点医療機関総数：7**

定点医療機関からの報告総数は21人(3.0)で前月比100%と横ばいであった。また昨年7月(2.7)の約1.1倍である。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数20人(2.9)で、前月と同率、昨年7月の約1.1倍である。70歳以上が全体の約6割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数1人(0.14)で、前月と同率である。年齢は70歳以上である。(昨年7月報告なし。)
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

**【全国】 定点医療機関総数：472**

定点医療機関からの報告総数は1,504人(3.2)で、前月比97%と横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,354人(2.9)で前月比98%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症137人(0.29)で前月比88%、薬剤耐性緑膿菌感染症13人(0.03)で前月比100%である。

宮崎県 感染症情報

(68定点医療機関)

2017年 第32週(8月7日～8月13日)

疾病名		第31週	第32週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	2	2		1			1				
	定点あたり	0.03	0.04	0.00	0.10	0.00	0.00	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	34	70	31	14	13	2		6		4	
	定点あたり	0.94	2.19	3.44	2.33	3.25	1.00	0.00	2.00	0.00	1.33	0.00
咽頭結膜熱	報告数	29	32	4	16	2	7		3			
	定点あたり	0.81	1.00	0.44	2.67	0.50	3.50	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	66	52	22	6	4	7	3	5		4	1
	定点あたり	1.83	1.63	2.44	1.00	1.00	3.50	1.00	1.67	0.00	1.33	1.00
感染性胃腸炎	報告数	282	239	65	47	7	20	40	16	3	22	19
	定点あたり	7.83	7.47	7.22	7.83	1.75	10.00	13.33	5.33	3.00	7.33	19.00
水痘	報告数	21	23	2	1	12	2	1	4		1	
	定点あたり	0.58	0.72	0.22	0.17	3.00	1.00	0.33	1.33	0.00	0.33	0.00
手足口病	報告数	303	179	48	22	53	5	18	6	2	23	2
	定点あたり	8.42	5.59	5.33	3.67	13.25	2.50	6.00	2.00	2.00	7.67	2.00
伝染性紅斑	報告数		1		1							
	定点あたり	0.00	0.03	0.00	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	25	32	9	3	8	6	2	1		3	
	定点あたり	0.69	1.00	1.00	0.50	2.00	3.00	0.67	0.33	0.00	1.00	0.00
百日咳	報告数		3			2					1	
	定点あたり	0.00	0.09	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	199	237	31	11	95	7	8	10		45	30
	定点あたり	5.53	7.41	3.44	1.83	23.75	3.50	2.67	3.33	0.00	15.00	30.00
流行性耳下腺炎	報告数	6	17		3	1	5		4		4	
	定点あたり	0.17	0.53	0.00	0.50	0.25	2.50	0.00	1.33	0.00	1.33	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	14	14	5	9							
	定点あたり	2.33	2.33	1.67	4.50	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数		1			1						
	定点あたり	0.00	0.14	0.00	0.00	1.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:55、小児科定点:32(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数  
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2017年第1週～32週)

2類感染症	結核	119例(5)			
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	8例			
4類感染症	E型肝炎	2例	重症熱性血小板減少症候群	9例	つつが虫病
	日本紅斑熱	2例	レジオネラ症	5例	
5類感染症	アメーバ赤痢	1例	ウイルス性肝炎	2例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症
	急性脳炎	3例	クロイツフェルト・ヤコブ病	3例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症
	後天性免疫不全症候群	5例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2例	侵襲性肺炎球菌感染症
	水痘(入院例)	1例	梅毒	8例	破傷風
	麻しん	1例			

( )内は今週届出分、再掲